

グループホームあすか

(別紙6)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300784		
法人名	社会福祉法人敬和会		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	栃木県下野市川中子1465-1 (電話) 0285-40-0102		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年8月12日	評価確定日	平成20年9月22日

【情報提供票より】(平成20年7月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤8人, 常勤換算8人	
	8 人	常勤8人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	・光熱費、共益費一各21,000円 ・理美容代、おむつ代一実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成20年7月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名		要介護2	4 名	
要介護3	5 名		要介護4	2 名	
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84 歳	最低	69 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下野郡市医師会病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人敬和会が運営する2ユニットのホーム「あすか」は市役所、運動公園が近く、田園地帯が広がり、住宅が立ち並ぶ静かな場所に位置している。広い敷地内には桜、紅梅や白梅などが植栽され、職員、入居者、ボランティアによる手入れが行き届いている。ユニット名も歴史ある当地を反映し、「あかね」「むらさき」と万葉時代を思わせる名称になっている。職員の入居者に接する対応は穏やかで、年長者である入居者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面が見受けられた。入居者の中には畑仕事に精を出す方がいたり、煮物を自ら振舞う方がいたり自然な家庭的雰囲気を感じられた。医師である理事長が週1回、回診し、医療的な配慮や相談もできる体制になっている。ユニットごとの異動もホーム全体での入居者と職員の馴染みの関係づくりや職員の質の向上に活かしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は外部評価・自己評価を、振り返りや自己研鑽の機会としてとらえ、全職員で自己評価に取り組んでいる。自己評価・外部評価を踏まえて、年3回の広報誌を発行したり、各委員会(はつらつ・園芸・レクリエーション)の活動で地域との協働を図るなど質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、スタッフ会議において評価し、管理者が記入し、その後全職員で検討をした。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、家族代表、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。平成19年10月、平成20年6月と今までに2回開催し、サービスの実態、評価の取り組み等を報告し、意見をもらいサービスの向上に活かしている。会議の中でアニマルセラピーについての助言があり、職員が視察をするなどして具体的な検討を進めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問の際には要望などが言えるような雰囲気作りを心がけている。入居者の暮らしぶりや、健康状態等を伝え、訪問できない方には電話等で様子を伝えている。年3回、広報誌を発行し送付したり、毎月の請求書発行の際に写真も添えて送付している。重要事項説明書にホームの苦情相談受付窓口と市の高齢福祉課の連絡先を明記している。また、無記名のアンケートを実施するなど、家族の声を聞くための具体的な取り組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会しており、広報誌などを届けてもらっている。老人会には入会していない。地域の祭り・花見などにも参加したり、近くの運動公園での花火大会等にも地域の方の協力を得て参加している。近隣の中学生が体験学習などで訪ねてきたり、月1~2回友達を訪れる入居者もいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、心豊かに、有する能力に応じて可能な限り自立した日常生活を営むことができるような支援をすること、地域の方々に信頼され満足して頂けるよう熱意と誠意を持って貢献することを理念として各棟の玄関に提示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議、スタッフ会議を月1回実施し、理念や運営方針の共有に努めている。また、委員会（はつらつ・園芸・レクリエーション）活動を通し、地域の方々の協力も得ながら理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、広報誌などを届けてもらっている。老人会には入会していない。地域の祭り・花見などにも参加したり、近くの運動公園での花火大会等にも地域の方の協力を得て参加している。近隣の中学生が体験学習などで訪ねてきたり、月1～2回友達が訪れる入居者もいる。	○	法人の特別養護老人ホームで地域の方と納涼等を実施し、入居者も参加している。ボランティアの方にホームの敷地の草むしりなどをしてもらったり、畑の管理の仕方を教えてもらったりもしている。今後も地域の方々の協力を得ながら、入居者の「地域での暮らし」を支援していくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価・自己評価を、振り返りや自己研鑽の機会としてとらえ、全職員で自己評価に取り組んでいる。自己評価・外部評価を踏まえて、年3回の広報誌を発行したり、各委員会（はつらつ・園芸・レクリエーション）の活動で地域との協働を図るなど質の向上に取り組んでいる。今回の自己評価は、スタッフ会議において評価し、管理者が記入し、その後全職員で検討をした。		

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員に参加してもらい、これまでに2回開催している。今後は、2ヶ月に1回開催することを検討している。運営推進会議の目的を説明し、管理運営や入居者の処遇状況などを報告し、意見をもらい、サービス向上に活かしている。	○	会議の中でアニマルセラピーについて取り組んではとの言葉があり、視察をするなどして具体的な検討を進めている。今後も様々な意見をもらいながら、運営推進会議をサービスの質の向上の場として活かしていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が窓口となって、報告・相談をしている。市担当者と協力し合い質の向上に取り組んでいるが、運営推進会議以外では行き来する機会は少ない。	○	入居者の地域の中での生活を支えるという視点からも、運営推進会議以外でも、より積極的にホームから情報を発信し、市と一緒に地域認知症ケアを推進していくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回広報誌を発行し、家族に送付している。また、毎月の請求書発行の際に写真を添えて送付したり、家族の訪問の際には健康状態や暮らしぶりを報告している。なかなか訪問できない家族には、電話等で様子を伝えている。預かり金は出納帳で管理し家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情相談受付窓口と市の高齢福祉課の連絡先を明記している。家族の訪問の際には、声をかけ、要望など言ってもらえるよう努めている。昨年は無記名のアンケートを実施しており、今年もアンケートを実施することを考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ヶ月に1回はユニット間で担当を変えているが、両ユニット間は中廊下でつながっており、入居者・職員とも、常に行き来しておりホーム全体として関係をつくれるよう努め、事業所間異動などがあっても入居者への影響が少なくなるように配慮している。		

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県、社会福祉協議会等からの研修案内があったときは、その都度参加を検討している。受講後は報告書を回覧したり、職員会議で発表の機会を設けるなどして内容の共有に努めている。今後は更に、研修受講、資格取得を計画的に進めたり、段階に応じた人材育成ができるようにしたいと考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、各研修に参加した職員は、研修先の同業者と交流を持つ機会がある。同市の事業者同士で協働しながら質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあったときは、本人・家族にホームに来てもらい、概要説明・面談をしている。必要に応じて、見学やお試しの期間を設けるなどして徐々に雰囲気に馴染めるよう家族と相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が主役となって生活の技や生活文化の大きさを職員が教えてもらったりしている。入居者同士で料理について話し合ったりしている姿が見受けられた。職員は穏やかな言葉と明るい雰囲気で入居者に接しており、入居者と一緒に生活をつくっている様子が見られた。		

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、随時、本人の希望や思いを把握するように努めている。困難な場合は家族から情報を得たり、本人の行動や表情からくみとるよう努めている。また、担当者会議などで情報交換し本人本位の検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認し、必要によって担当医師の指示なども踏まえ、毎月1回担当者会議（ケアマネジャー、職員）で話し合いを行い、入居者主体の暮らしを反映した介護計画の作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1年に1回、計画の見直しをし、状態の変化によっては、その都度関係者と話し合い、随時、見直しをしている。細かいケアについても実践を個別記録に記入し、計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族が安心して暮らし続けていくための多様な支援を行っている。買い物、美容室の利用など本人の希望に応じて柔軟な対応に努めている。また、読み聞かせ、ハーモニカ等のボランティアを数多く受け入れ、楽しみごとの支援もしている。		

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師である理事長が週1回、回診に来てくれる体制ができている。慢性疾患等のかかりつけ医がある入居者については家族と連携をしながら、服薬や症状変化の情報提供など適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、本人・家族の意向等を踏まえ、本人にとってどうあったら良いか職員、家族や囁託医等と話し合い、法人の特別養護老人ホームとも連携しながら検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の意義を理解し、情報漏洩防止に気をつけている。記録関係は関係者以外通らない事務スペースに保管している。プライバシーに関わるような発言、対応には最新の注意を払って支援をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日にしたいことを把握し、入居者のペースにそって見守りながら支援している。訪問日にも午前中に畑仕事をして、昼食前にビールを飲み、入居者が作った煮物を食べている入居者の姿も見られた。		

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配業者を利用しているが、嗜好を把握し、できる限り入居者の希望にそうように配慮している。月1回のお好みメニュー、寿司などの出前も取り入れている。月2回のドライブ帰りなどに外食をしたりもしている。職員は1名が検食を兼ねて一緒に同じ物を食べ、声かけなどのサポートをしていた。食後の片付けも無理のない程度に職員の支援の下で行っていた。	○	他の職員は別室にて弁当を食しているが、家庭的という視点から入居者と一緒に同じ物を食べるということを再度検討してみることも期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除く毎日、13:00~18:00の時間帯で各棟いずれかで入浴の支援をしている。週3回を目安に、毎朝入浴の希望を確認している。限られた時間帯の中でも入居者の希望に合わせた時間に入れるように配慮し、着脱、入浴を含め約30分、ゆったりと入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの入居者の趣味や嗜好の理解に努め、家事や畑仕事、また、ボランティアの協力も得ながら、ぬり絵、おし花、歌、外出など役割や楽しみごと、気晴らしの機会をつくっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として、希望時に買い物や外食に随時出かけている。また、四季折々の外出の機会をつくっている。家族等と一緒に外出も積極的に支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やホーム内は施錠をせず、職員の見守りで対応しているが敷地周りにフェンスがあり、門には鍵をかけている。家族の訪問の際には暗証番号を利用して出入りしている。	○	入居者が外に出たくなる場面や理由、行き先などを知り、安全性の検討をしながら、更に「地域の中のグループホーム」という意味でも地域の方の協力なども視野に入れ、門の鍵も開放できるような検討をすすめていくことにも期待したい。

グループホームあすか

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回グループホーム独自に定期的な訓練を行っている。	○	今後、消防署にも協力を依頼しながら、地域住民と共に定期的に訓練を実施したり、避難場所や備蓄等についても確認・検討していくことにも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は、宅配業者を利用しており、栄養バランスやカロリーなどが計算されたメニューになっている。一人ひとりの1日の栄養摂取量や水分摂取量を把握し、適切な摂取ができるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は圧迫間のない高い天井になっており、天窓からの採光にも配慮された造りになっている。換気等も適切に行われており、気になる臭いなどもなかった。家庭で使われていた家具、調度品等を使用したり、観葉植物・季節の花・入居者の手作りの作品を飾って、生活感や季節感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、布団、カーテンはホームの備えつけになっている。その他の家具や生活用品等の持ち込みは自由となっている。居室内は入居者にとって使いやすい配置にし、馴染みの調度品等が置かれていた。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。